



夢の道と呼ぶにふさわしいむかしの道のはなしをしてください。

②古の人々の曙の道—東西文化交流の大動脈「絹の道（シルクロード）」

「シルクロード」とは、もともと洛陽^{らくよう}、長安^{ちやうあん}などの中国の都市とシリア、ローマなど西方の諸地域とを、中央アジア経由で結んだ東西交通路、多くのキャラバンルートの総称です。

むかし、これらの交通路を使って運ばれた中国商品の中心が絹であったことからこの名称で呼ばれているのです。

昨今のわが国では、この語の用法を拡大して中国、日本と西方諸国とを結ぶ陸上、海上のあらゆる交通路と、その沿線地域を指して用いることが多いようです。

陸上の道は、何本かの幹線道路と無数の支路からなりますが、いずれも天山山脈、タクラマカン砂漠、パミール高原などの地域を通過して、西アジアあるいはインドのほうへ達していたようです。

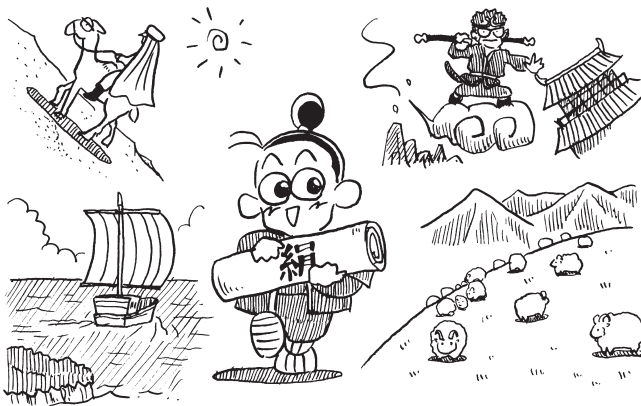
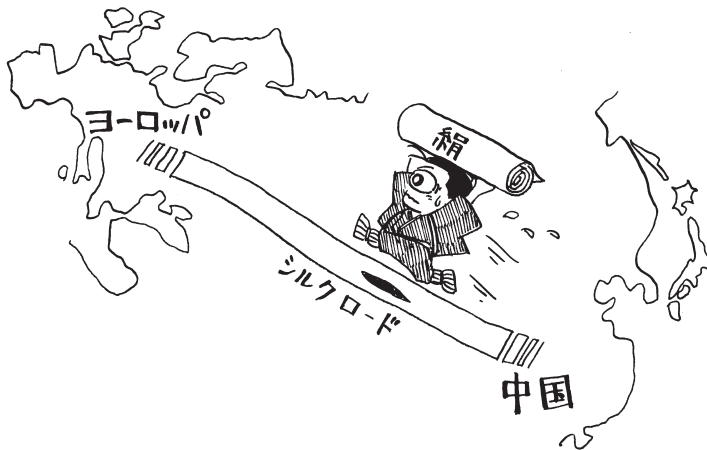
海上ルートは、南シナ海、インド洋、アラビア海などを利用しました。

これらの幹線路は、「草原の道」「オアシスの道」「海の道」などとも呼ばれていますが、そのような道々を、あるいは羊の群を追う遊牧の人々が、あるいは隊商のラクダの列が、あるいは青海に美しい帆船が行き来する情景を想い浮かべるだけでも、道のロマンを強く感じますね。ほら、孫悟空たちもマルコポーロもそこにいるじゃないですか。

こうして、絹の道は東西文化交流の大動脈として大きな役割を果たしてきたのです。

このように、運ばれた商品が交通路の総称となっているものには、大むかしのヨーロッパの「琥珀^{こはく}の道」というものもあります。

琥珀は、松、杉などの樹脂が地中で化石化したもので、黄色ないし褐色



で、その美しさと希少さのため古くから宝石として愛好されました。

また、日本には規模は小さいですが、若狭から京都に至る「鯖の道」が有名です。

鯖に塩をして人力で山を越え、京都に着く頃には鯖寿司にちょうどいい加減の塩のまわりであったといいます。